

6 0 1 1 - 1 2 0 2
平成 2 6 年 3 月 3 1 日

各関係機関長
各病害虫防除員 様

宮崎県病害虫防除・肥料検査センタ - 所長

平成 2 5 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号について

平成 2 5 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号を公表したので送付します。

平成 2 5 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号

- 1 病害虫名：モトジロアザミウマ (*Echinothrips americanus* Morgan)
- 2 作物名：ピーマン
- 3 発生確認の経過
平成26年3月、県央部施設ピーマンにおいて葉がかすり状になる症状がみられ、宮崎県総合農業試験場職員が現地を調査したところ、暗褐色のアザミウマの寄生を確認した。
門司植物防疫所に同定を依頼したところ、県内未発生のもトジロアザミウマであることが確認された。
国内では平成11年に東京都のインゲン、平成14年に愛知県のシソ（オオバ）、平成15年に高知県のミョウガ、平成16年に鹿児島県のハイビスカス、平成25年に香川県のディーフェンバキアおよびシンゴニウム、栃木県のハイビスカスで発生が確認されている。
- 4 特徴
体長は雌成虫が約1.6mm、雄成虫が約1.3mmで、体色は暗褐色。前翅の付け根の色が薄く、白いラインが入ったように見える。頭部、胸部、腹部の節間は赤みを帯びている。
1 齢幼虫は黄白色で体長約0.5mm、2 齢幼虫は黄色で体全体が刺毛に覆われ、体長約0.7~1.2mm。複眼は赤みを帯びている。
蛹（第1蛹、第2蛹）の体色は白色で、太い刺毛を有する。
卵は長径約0.3mm、短径約0.2mmの乳白色の俵型で、葉脈ぞいの葉肉中に産み付けられる。
卵~成虫までの発育期間は、20 で33.9日、30 で11.4日とされ、高温下であれば短期間に世代を繰り返す。
- 5 寄主
寄主範囲は広く、施設野菜のシソ、キュウリ、メロン、ナス、トマト、ピーマン、インゲンマメ、花き類のポインセチア、バラ、ハイビスカスの他、多くの観葉植物等で成幼虫の寄生と加害が確認されている。また、イネ科雑草やキク科雑草、カタバミ等施設内下草への寄生も確認されている。
- 6 被害状況
寄主植物の葉に寄生し加害する。被害葉は食害により葉がかすり状になり、激しい場合は落葉する。本種は、全ての発育ステージで葉の表裏に生息し、特に中・下位葉に多く確認される。

7 防除対策

- 1) 施設サイド及び谷部への0.4mm目合いの防虫ネットを設置するとともに、施設内外の除草を行い、施設へのアザミウマ侵入を抑制する。
- 2) 栽培期間中は、アザミウマ類に登録のある薬剤の散布や、天敵・微生物殺虫剤の活用等により、アザミウマの防除を行う。
- 3) ピーマンのアザミウマ類に農薬登録のある薬剤は、スピノエース顆粒水和剤、アグリメックなどがある(参考資料)。



写真1 成虫と第2 蛹



写真2 第1 蛹



写真3 寄生状況(葉表)



写真4 かすり状葉

(参考資料)

モトジロアザミウマ 1 齢幼虫の薬剤感受性検定 (施設ピーマン) 葉片浸漬法				
供試薬剤名 (製品名)	希釈倍率	供試 頭数	48時間後 補正死虫率	登録がある主な作物
スピノサド水和剤 (スピノエース顆粒水和剤)	5,000	29	100.0	ピーマン、きゅうり、トマト、 しそ(花穂)、きく
アバメクチン乳剤 (アグリメック)	500	32	100.0	ピーマン、ナス、メロン、 花き類・観葉植物

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター(2014)

《連絡先》

病害虫防除・肥料検査センター 壹岐

TEL :0985-73-6670 FAX :0985-73-2127

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

ホームページ : <http://www.jpnpn.ne.jp/miyazaki>